

「ボランティア応援講座」

- 1 趣 旨 青少年教育施設における今日的な役割を理解し、青少年の体験活動を支援するボランティア活動に必要な基本的な知識や技能を習得する。また、研修を通して参加者同士の交流を図り、主体的・継続的に社会参画を目指すボランティアの育成をねらう。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 共 催 福岡県立社会教育総合センター・福岡県立英彦山青年の家・
福岡県立少年自然の家「玄海の家」
- 4 後 援 福岡県教育委員会
- 5 期 間 令和7年6月7日（土）～8日（日） 泊2日
- 6 会 場 国立夜須高原青少年自然の家
〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
- 7 対 象 ボランティア活動に興味のある高校生以上の方 40名程度
- 8 参加者 12名
- 9 日 程 6月7日（土）
研修① 「仲間づくり」
研修② 「青少年教育の理解」
研修③ 「青少年教育施設の現状と運営」
研修④ 「ボランティア活動の技術（活動中の安全）」
研修⑤ 「ボランティア活動の技術（野外炊飯）」
研修⑥ 「ボランティア活動の意義」

6月8日（日）
研修⑦ 「ボランティア活動の技術（野外炊飯）」
研修⑧ 「安全管理（普通救命講習）」
講師 甘木・朝倉消防本部隊員
研修⑨ 「青少年教育施設におけるボランティア活動」
説明 福岡県立社会教育総合センター社会教育振興室体験活動推進班班長 村本篤史氏
福岡県立少年自然の家「玄海の家」主任社会教育主事 嶋田磨佐也氏
福岡県立英彦山青年の家の主任指導主事 瀬之口紘史氏
研修⑩ 「法人ボランティア登録制度とは」

10 活動の実際



【仲間づくり】



【青少年教育の理解】
(新聞紙タワーづくり)



【ボランティア活動の技術】
(活動中の安全・KYT トレーニング)



【ボランティア活動の技術】
(カレーづくり)



【安全管理】
(普通救命講習)



【法人ボランティア登録制度】

11 感想

- 先輩ボランティアのパワーポイントでのプレゼンテーションや野外炊飯での説明など歳の近い人からの説明があると身近に感じ、ボランティアに興味を持つきっかけとなっていたため良かった。
- 学ぶことが沢山あり、特にリスク管理の点と、先輩ボランティアの話が印象に残った。法人ボランティアの一員として、これから私もイベントに積極的に参加していきたい。班を超えてたくさんの人と新しい繋がりができたのが嬉しかった。
- 座学だけでなく、実際に見たり体験したりすることでより学びが深まったと思う。研修を通してボランティアに参加したいという気持ちが高まった。特に危険予知トレーニングでは、自分たちでも体験して、振り返ることでより具体的にイメージすることができた。

12 成果

- 参加者のうち 10 名がボランティア登録を行い、新規のボランティア確保ができた。今後、教育事業等での活動機会の提供に努めたい。
- 先輩ボランティアが参加者指導を行う機会を前年度よりも増やしたことで、参加者からの反応も良好であった。先輩ボランティア・参加者ともにボランティア活動に対する意欲を喚起することができると考えられるため、次年度以降も同様のサイクルを継続したい。
- 参加者の感想から、危険予知トレーニングと野外炊飯の組み合わせなど、体験とふりかえりを効果的に研修に取り入れることで、参加者の学びが深まったことが伺えた。

13 課題

- 各大学・高等学校への広報を前年度から行うなど、さらなる参加者確保のための方策を検討したい。
- 野外炊飯の指導を先輩ボランティアが行った際、技術面における指導が十分でなく、参加者満足度は相対的に低かった。実際の教育事業において子供を含む参加者に対して適切な指導ができるよう、ボランティアが技術の習熟を図る機会を継続的に提供していくことが必要である。